

## 学生大使 実施報告書

氏名：八巻 沙和

学部・学科（コース）・学年：工学部・建築・デザイン学科・1 学年

派遣先大学：新モンゴル学園

派遣期間：約 2 週間

### 1 日本語教室での活動内容

私は新モンゴル学園の特に高等専門学校で日本語教室を行いました。授業時はパワーポイント使い、難しい日本語の表現などをしたときは現地の日本語の先生にその場で訳してもらいながら進めて行きました。私は方言について授業をしました。日本語クラスは日本語の習熟度によって 3 つに分けられており、習熟度が低いクラスでは内容があまり理解されていない様子でした。事前に授業の様子の見学を行っていたので、そこからクラスに合わせて複数授業内容を準備しておけばよかったと後で思いました。方言を紹介したあとクイズを用意して生徒に参加してもらいました。積極的に答えてくれる人が多く授業をしていて楽しかったです。ですが、工夫すればもっと生徒とコミュニケーションを取りながら授業ができたと思うので機会があればそこに注力して授業を構成してみたいです。

### 2 日本語教室以外での交流活動

新モンゴル学園では日本語教室以外であやとり教室や日本語祭りに参加しました。学校にいる間は基本的に高校生くらいの年代の人と関わっていたので、あやとりで小学生とふれあうのは新鮮でした。私はモンゴル語が分からなかったのですが、英語が使える生徒がいてなんとか教えることができました。一つの技を教えると嬉しそうに他の先生に見せに行くのがほほえましかったです。後から後から自分もやりたいと押し寄せてきてあやとりの紐が足りなくなって追加で作ったくらいでした。子供の頃に遊んだものが海外で当時と同じくらいの子供たちに遊んでもらえるのは単純に嬉しかったですし、そういった文化も受け入れてもらえるのだなと思いました。私は参加できませんでしたが、折り紙教室なども他の学生大使が開いたようでそちらも盛り上がったようでした。

高等専門学校と高等学校の方ではちょうど日本語祭りがあり、どちらも参加させていただきました。高専では生徒が企画したものを手伝う形で参加しました。おにぎりをにぎったり書道、折り紙を折ったりしました。日本語教室よりもこちらの方が生徒とより近く関われたと思います。みんなでわいわいしながら文化祭をやっているようで自分も高校生に戻ったように感じました。祭りの後の表彰式で馬頭琴の演奏とモンゴルの伝統的な踊りを見たことが印象に残っています。

学外では放課後や週末にホストファミリーとショッピングに行ったり田舎にゲルを見に行ったりしました。道ばたには小店があって日本とは違う雰囲気で見ているのが楽しかったです。首都のウランバートルは暖房装置用に石炭を燃やしておりスモッグで空気が重たいの

## 【学生大使 実施報告書】

ですが、田舎に行くと空気がきれいでとても気持ちいいです。

### 3 参加目標への達成度と努力した内容

当初の目的は異文化を知ることと現地の建築物を見ることでした。私はホームステイをしたのでホストファミリーとコミュニケーションを取ることが最初の異文化交流でした。生活様式も何もかも違う訳ではないのですが、少しずつ文化や考え方の違いが見えてきて面白かったです。基本的に学園の人と行動して、大抵日本語か英語で会話ができたのですが、街に出たときに相手が何を言っているのかわからず大変でした。ホストファミリーの母親がモンゴル語しか話さない人だったのでジェスチャーやグーグル翻訳で乗り切りました。それでもあたたかく接してもらえたので嬉しかったです。

念願だったゲル見学も他の学生大使のホストファミリーのおかげで行くことができました。思ったよりも中が明るくて構造が気になりました。また、ウランバートルの街を車で走っていると建設途中の建物が多く見受けられました。やはり寒いので冬場は建設が滞り、一つの建造物完成までに時間がかかってしまうそうです。ゲル以外にもモンゴルが抱える建設現場での問題を知れたのは良かったと思います。気候による建築への影響を考えるきっかけになりました。

### 4 プログラムに参加した感想

私は海外に行くのが初めてで最初は不安でしたが、行ってしまうと何があっても楽しもうと考えるようになりました。それでも最初の一週間はホストファミリー宅でどう過ごしたらいいのかわからなかつたりなかなか自分から生徒に関わりに行くことができず、仲良くなれなかつたりしてつらいと感じていました。そんな中、週の後半に高専で日本語祭りがあり、生徒とおにぎりを作りました。割り当てられた教室に行くと生徒がおにぎりをほぼ直角三角形のような型に入れて作っていて驚きました。握り方を教えてほしいと言われたので一緒におにぎりをにぎりました。だんだん味付けなどにアレンジが加わっていくのが見ていて楽しかったです。準備をしながら少しずつ生徒と打ち解け、やっと自分の中にあった壁を乗り越えることができましたと感じました。二週目は、緊張も解け家でもリラックスして過ごしていました。

モンゴルの生活で一番辛かったのは朝が早いことです。私はホストファミリーが学校に行くのでホストマザーの車と一緒に乗せてもらっていたのですが、モンゴルは渋滞が発生しやすく道路が混む前に出発する必要があります。日本にいたときは夜型生活をしていたのでこれが一番たいへんでした。7時に家を出ても車の進みはかなり遅かったです。モンゴルではこれが問題となっていて車のナンバーによって走れる時間帯が変わるそうです。走る車を見ていると日本車が多くて驚きました。

### 5 今回の経験を踏まえた今後の展望

休憩中に生徒と話していて英語が話せる人が多いことに驚きました。ホストファミリーも流暢に英語を話すので私をもっと語彙力があつたらもっといろいろ話せたらと思います。

## 【学生大使 実施報告書】

今後のために英語で日本語のように意見を伝えられるようになりたいです。

今回はわざとモンゴルの事前知識をあまり持たずに渡航しました。軽く歴史や文化は知っていたのですが、深くは分からない分、直接目の当たりにしたときの衝撃が大きかったです。ですが、調べなかったせいで失礼になってしまった部分があったので次回は気をつけたいと思います。大変だったこともありますが、もっと海外に行きたいと思えるような2週間でした。

## 6 現地での活動写真

写真1 ウランバートルの街並み



写真2 スーパーマーケットの精肉コーナー



写真3 氷の像



写真4 田舎の動物

